（様式３）　　令和８年度秋田県ジオパーク研究助成事業

研究実施計画書

令和 8 年 5 月 20 日

代表者名（氏名）　ジオ 太郎

１．研究の目的及び内容

（１）　研究のテーマ

男鹿半島・大潟ジオパークにおける遺跡立地から見た八郎潟汀線の復原研究

（２）　研究の区分（共同研究の場合は、その氏名、所属機関・役職を記入すること）

単独研究　　共同研究

ジオ 美子（ジオパーク大学 准教授）

大潟 村男（ジオパーク高校 教諭）

八峰 町子（ジオパーク大学大学院 博士前期課程 1 年）

（３）　研究の目的及び内容（できるだけ具体的に記述すること、先行研究、引用文献を示すこと）

男鹿半島・大潟ジオパークの主要な見どころとして、大潟村があげられる（男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会 2015）。大潟村は昭和 39 年に誕生した自治体であるが、旧八郎潟を大規模干拓して誕生した。旧八郎潟の干拓は、戦後の食糧増産を目的とした国策事業として実施された。

旧八郎潟の変遷については、これまで、遺跡やボーリング調査による貝化石等の検討から変遷図が示されており（渡部 2010・白石 2014）、男鹿半島が日本列島の一部となっていた時代から半島となるまでの変遷が明らかとなっている。

本研究では遺跡の立地を中心に、より微視的な観点から～

引用文献

男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会 2015『現況報告書 2015』

渡部晟 2010「男鹿半島八郎潟の形成」『八郎潟物語（第二版）』潟船保存会編

白石建雄 2014「八郎潟の生い立ち」『大潟村史』大潟村編

（４）　調査・研究の方法（調査区域や地点・調査方法や日程等の概要）

【調査・研究の方法】

秋田県遺跡地図情報（http://common3.pref.akita.lg.jp/heritage-map/）を参考に、旧八郎潟西岸の台地上及び、低地、南岸の低地における遺跡立地を、縄文時代（前期・中期・後晩期）、弥生時代（前期・中期・後期）に分けてプロットし、旧八郎潟汀線の変位を復元する。また、特に縄文時代後晩期及び弥生時代前期の情報が少ないため、現地踏査及び遺跡存在可能性地のボーリング、その地点における AMS 年代測定を行う。なお、八郎潟西岸の現行水田下には、植物の腐敗土層の堆積が確認されている（男鹿市教育委員会 2008）。

さらに、～

引用文献

男鹿市教育委員会 2009『市内遺跡詳細分布調査報告書』男鹿市文化財調査報告第 36 集

【日程（予定）】

交付決定後～8 月　遺跡地図の洗い出し、分布図作成

8 月～9 月　現地調査、ボーリング地点候補地の選定

8 月～10 月　ボーリング調査、AMS 年代測定

11 月～12 月　成果まとめ、原稿作成

12 月　論文投稿

２．研究成果の公開見込み

（１）本研究採択及び期間満了後の成果公開見込み（見込みの場合は投稿予定誌等を記入すること）

論文・学会発表等で投稿見込み（令和 8 年 12 月頃投稿予定）　見込みなし

投稿予定誌『ジオパーク考古学』

３．事業実施期間　交付決定日から令和 9 年 2 月 28 日まで